

とものていぼう
伴野堤防

組織で造り上げた堤防

惣兵衛堤防と天竜川を挟んで対岸にある伴野村は、惣兵衛堤防からの水はねによる激流によって、たびたび大災害を被り、川除け(堤防)は幾度も流出した。

1883(明治16)年、松尾千振は伴野村有志による「開墾組」を組織し、堤防建設を進めた。その後も、堤防補強・修理が行われ、1904(明治37)年に伴野堤防が完成した。



現在の伴野地区の堤防



開墾組彰功之碑(左)と松尾千振頌徳碑(右)



1961(昭和36)年に発生した三六災害によって、伴野堤防は壊滅的な被害を受けた。昔の伴野公園に松尾千振と開墾組の石碑がある。

1883(明治16)年に開かれた、河原土地所有者の集会の折、松尾千振は村人に堤防修復の必要性を説き、有志33名とともに「開墾組」を作った。堤防工事途中に、松尾千振は39歳の若さで亡くなってしまったが、「開墾組」が意志を引き継ぎ、堤防を完成させた。



惣兵衛堤防・伴野堤防・座光寺石川除の位置関係
(国土地理院の数値地図50000(地図画像)を使用)



information

- アクセス
松川川から10km
車→20分
- 所在地
豊丘村神稲



(国土地理院の数値地図25000(地図画像)を使用)